

# 今支館・分館では

## 『六道地蔵尊祭り』

小原分館



小原の六道むだむち標は、昔から有名であったが幾度となく災害に遇い、原形は留めていません。樹齢1000年ともいわれた大樺の下に、身替みかぎ地蔵尊七体が祀られ、小原区民の幸を見守り数百年に及んでいます。小原の地蔵様は、古くから村の入口にあり、村の守仏として大切に守られています。地蔵様は、最初から7体であ

ったかは不明ですが、現在は7体の地蔵尊が祀られ、かなり古いものだと推察できます。7体の中で大きな地蔵尊は、慶安3年江戸初期に建立されたと言い伝えられています。

この地蔵様には、昔からの伝説があり大きな地蔵様の肩に刀傷のような跡があります。その昔旅人が、追いはぎにおそわれた時に身代わりとなつて助けた時の傷跡だと言い伝えられ、身替地蔵として親しまれてきました。また、難病を治してくれると信じられ、悪い病の部分に小麦粉を塗り布で包帯すると病に効くと信じられ、現在のお祭り時にもその風習が残されています。ほかにも手足にできたイボを地蔵様の前の石でこするとイボが治るとも言い伝えられてきました。

六道地蔵尊のお祭りは、毎年7月23日に行われています。戦後お祭りが途絶えましたが時の老人クラブの方々により再開されて現在に至っています。公民館が主体となつて開

催すこの祭りは、毎年盛大で出店等を受け区民の憩いのお祭りとして親しまれ、年間行事の中でも大きなイベントとして浸透しています。これからも末永く継続できたいと思います。

小原分館長 赤尾 邦弘



## 『区民ハイキング』

井子分館

西小諸支館井子分館では、

区民の親睦を目的に、毎年7月下旬に公民館主催の区民ハイキングを開催しています。

区民ハイキングは、以前行っていた区民運動会に代わるものとして平成8年にスター

トし、今年で21回目を数えました。様々な世代が参加できるように、学校が夏休みに入る時期に行っています。

スタート当時は、ハイキングということで三方ヶ峰や湯の丸、黒斑山、太郎山など地元あたごの山が中心でしたが、群馬のアプト式鉄道や霧ヶ峰高原など遠方に出かけた年も多い時は100人を超える参加者がありました。

昨年、区内の寺ノ浦遺跡で発掘作業が再開されたこともあり、今年は、縄文のヴィーナスなどの国宝が展示されている、茅野市の尖石縄文考古館を目的地としました。金銭的な負担も気にせず参加してもらえよう、今年はずっとの参加費を無料にし、全員の入館料も公民館が補助し、1人でも多くの参加者を募るよう計画しました。

当日は、天気にも恵まれ、幼児から70代の方まで40人の区民に参加していただきました。考古館では学芸員の方から解説を聞きながら館内を見学希望者は、館名の由来といわれている尖石遺跡にも足を伸ばしました。昼食は、敷地内に復元されている竪穴式住居が見渡せる木陰でとりました。



が、標高1100メートルということもあり、真夏とは思えない爽やかな風を感じられ大変好評でした。帰路には長門牧場でソフトクリームを食べながら、目の前に広がる風景を堪能しつつ小休止、到着後の慰労会にもほぼ全員の参加となり、丸1日かけて交流を楽しんでいただきました。

世代交代の影響か、ここ数年は参加者が減少傾向ですが大勢の人に参加していただければ来年も知恵を絞りたいと思っています。

井子分館長 宮下 孝男

主事 小野沢和彦